

1 学校教育目標

「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる」

(1) めざす子ども像

- 自ら考え行動する子
- 思いやりのある子
- たくましい子

(2) めざす学校像

- 子どもにとって
 - ①子ども一人ひとりが主体的に学ぶ学校
 - ②互いの違いを理解し仲間とともに学ぶ学校
- 教職員にとって
 - ①教職員一人ひとりが学びのモデルとなる学校
 - ②互いの学びを交流し、チームとして支援し合える学校
- 保護者・地域にとって
 - ①保護者や地域の方々が教育活動を支援できる学校
 - ②地域の教育財産を活用し、地域に根ざす学びの場としての学校

(3) めざす教職員像

- 研究と修養に励み、自己研鑽に努め、学び続ける教職員
- 豊かな人間性と子どもへの温かい教育的愛情を持つ教職員
- 組織的・協働的な体制で取り組み、信頼される教職員

2 学校経営の基本方針

- みんなが安全・安心な学校をつくる
- 学び愛、認め愛、高め愛を基盤とし、すべての子どもに学習権を保障する
- 学校運営協議会及び地域学校協働本部と協働し、開かれた学校運営を行う

3 重点目標

(1) 学級経営の充実

- ・基本的な生活習慣や学習規律の確立などを通して、自律を身につける指導を行う。
- ・学びの場として安全・安心で落ち着いた教育環境をつくる。
- ・教育相談を充実させ、早く子どもの変化に気づき、対処できるシステムを構築する。
- ・豊かな人間関係の中で一人ひとりの自尊感情を育み、達成感や喜びを共有できるよう、計画的で系統的な学級経営を行う。

(2) 生徒指導の充実

- ・子どもたちが抱える背景を把握し、多面的で温かな子ども理解を通して、全教職員でチームとして丁寧な生徒指導に努める。また、子どもの発達段階や実態に応じて複数の教職員が子どもと関わり、多面的に子どもと関わるができるように努める。

- ・児童会活動等を通して子どもたちの自治活動を活性化させることによって、子どもたちの自尊感情や自己有用感を高めるとともに、自律性や他者理解の力を養う。
- ・子どもたちの日常生活における変化に気を配り、子どもと真摯に向き合い、その思いを丁寧を受け止めるとともに、家庭との連絡を密にし、必要に応じて関係機関との連携を図る。
- ・いじめ認知を積極的に行い早期発見に努めるとともに、いじめ事案と判断した時には、いじめ対応チームを中心として組織的に早期対応、解決にあたる。

(3) 特別支援教育の充実

- ・特別な支援を必要とする子ども一人一人の状況を把握し、「個別の指導計画・支援計画」に沿って、自律するための力を身につけさせる。
- ・特別な支援を要する子どもへの理解を通して、お互いを尊重できる教育を進める。

(4) 人権教育・道徳教育の充実

- ・互いの違いを理解し、自分や他者を大切にする人権教育の充実に努める。
- ・自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うよう、道徳教育の充実に努める。

(5) 健康教育・安全教育の徹底

- ・子どもたちが自らの健康に関心を持ち、安全を確保する能力を育成するための健康教育・安全教育を推進する。
- ・安全で安心な教育活動を進めるため、日常から教育環境の整備に努める。

(6) 学習活動の充実

- ・成長過程に応じた学習習慣を系統的に身につけさせ、主体的、対話的で深い学びによる授業改善を進める。
- ・自然や環境に関心を持たせる環境教育の充実に図り、体験活動などを通して子どもたちが主体的に考え深め合う学びを進める。
- ・兵庫型システムによる教科担任制や専科制により、学習形態を工夫・活用する。
- ・一人一台のタブレット端末を活用し、情報活用能力の育成、情報モラル教育の充実、個別最適な学び、協働的な学びを創出する。

(7) 研修の充実

- ・教職員が、子どもの実態に合わせて取り組み目標を決定し、自らの学びを深めるとともに、互いの学びを発信し交流する。
- ・「課題解決に向けた、発信力の育成」を校内研修の軸にし、校内外において積極的に実践を発信するとともに、校内外の取り組みを積極的に取り入れ、自身の実践に活かす。

(8) 家庭・地域との連携

- ・学校運営協議会及び地域学校協働本部と協働し、学校支援ボランティアや地域人材、地域の自然・環境・文化などの学習材を積極的に活用する。
- ・地域に根ざす学校として家庭・地域との連携を深めるために、地域活動に積極的に参加する。